

利 用 者 の た め に

I 農業構造動態統計の概要

1 作成の目的

1995年農業センサス(平成7年)から2000年世界農林業センサス(平成12年)にかけての経営耕地面積規模別構成、農業経営組織別構成、農業労働力保有状態別構成等について、個々の農家の構成がどのような変動を経て現在に至ったかの構造の変化を明らかにするものである。

2 集計の対象と方法

1995年農業センサス及び2000年世界農林業センサスで農家に該当したすべての世帯を対象とした。

II 用語の解説と利用上の注意

1 用語の解説

(1) 農家

農家とは、1995年農業センサスでは、平成7年2月1日(沖縄については、平成6年12月1日)、2000年世界農林業センサスでは、平成12年2月1日(沖縄については、平成11年12月1日)現在の経営耕地面積が10a以上の農業を営む世帯及び経営耕地面積がこの規模に達しないか、又は全くない世帯でも調査日前1年間における農産物の販売金額が15万円以上あった世帯をいう。

(2) 継続農家

継続農家とは、1995年農業センサス時に農家であって2000年世界農林業センサス時も農家であった世帯である。

なお、1995年農業センサス時の調査区から2000年世界農林業センサス時にかけて他の調査区に転居し、引き続き農家であるものは継続農家として取り扱った。

(3) 離農世帯

離農世帯とは、1995年農業センサス時には農家であったが2000年世界農林業センサス時には農家でなくなった世帯である。

(4) 新設農家

新設農家とは、1995年農業センサス時には農家でなかったが、2000年世界農林業セ

ンサスにおいて農家であった世帯である。

(5) 不明世帯

1995年農業センサス時に住んでいた調査区から2000年世界農林業センサスまでの間に他の調査区に転居した世帯のうち、転居先が不明の世帯及び2000年世界農林業センサスにおいて農家でこの5年間に転居してきた世帯のうち、転居元が不明の世帯である。

このことから不明世帯の内訳としては、本来的な意味での継続農家と離農世帯の一部が該当することとなるので利用に当たっては十分に留意されたい。

2 統計表の見方

本報告書は24種類の統計表を掲載しているが、統計表の見方は、次のとおりである。

なお、本報告書での平成7年の農家数が、1995年センサス結果と一致していない場合があるので留意されたい。これは、平成7年から平成12年の5年間に県を越えて転居した世帯が、平成12年に居住している場所で集計されているためである。

(1) 横系列の見方

統計表の横系列は、平成7年時における階層別の農家群が平成12年までの5年間にどのような階層へ移動したか、又は離農したかをみることができる。

なお、横系列の不明世帯は平成7年に農家であったが平成12年までの5年間に転居して転居先が不明の世帯である。

(2) 縦系列の見方

統計表の縦系列は、平成12年における階

層別の農家群が平成7年の時点においてどの階層に存在していたか、又は新設農家であるかをみることができる。

なお、縦系列の不明世帯は平成12年に農家として調査し、平成7年から平成12年までの間に転居してきたが、転居元が不明の世帯である。

3 添付CD-ROMについて

本書には、巻末に本書に掲載した統計表のファイルを収録したCD-ROMが添付してあるので、データの加工等に利用されたい。

なお、CD-ROMの利用方法については、CD-ROMに収録されている、readme.txtを参照されたい。

連絡先：農林水産省大臣官房統計情報部

構造統計課 農林業センサス統計班

電話：(03) 3502-8111 内線 2642、2643

(03) 3591-4603 (直通)



統計はあなたの暮らしに活かしている